

PEGから経口摂取可能になった1症例

尾鷲総合病院 NST&CP Complex (NCC)

嶋本 早起 加藤 弘幸 谷 ちづる 上岡 容子 川口 恵 大川 光

大川 貴正 矢賀 進二 中井 りつ子

当院では「経口摂取こそ最高の栄養法であり栄養管理の最終目標である」を目標に、NST摂食・嚥下障害チームが活動している。今回、患者のQOLを考慮した栄養管理を行い経腸栄養から完全経口摂取へ移行した症例を経験したので、報告する。【症例】60歳代男性、平成24年4月脳出血発症し他院へ転院・治療後、脳出血後遺症にて同年6月、当院に転院。寝たきりでコミュニケーション不可、栄養状態も不良であった。58歳より透析導入の患者。【経過】入院時初期評価より165cm 体重60.5kg BMI22.2、栄養管理方法はNGチューブより半消化態栄養剤を使用していた。しかし、7月1日多量に嘔吐し一時絶飲食となり静脈栄養管理となった。12日にPEG増設し、18日PEGより経腸栄養開始となった。31日に嚥下評価を行い経口可能と判断し、経管栄養と併用しながら嚥下食2から経口開始した。徐々に食事形態を上げていき、嚥下食4で経管栄養を中止し、以後経口からのみ摂取し転院により退院された。また退院時、ADLアップし、コミュニケーション可能であった。【まとめ】PEGに関して是非が問われているが、継続して経口摂取へ移行するという目標・目的を持ち、適切な評価・訓練を行うことによって、有用なものになると考える。